

●アンネ・フランク パネル展

@古民家ギャラリースペース

※会期中全日開催



「じゃあまた、アンネ・フランクより」

1944年8月1日にそう書いたアンネは、再び自分の日記を手にするのではなく、翌年3月ベルゲン・ベルゼン強制収容所で亡くなりました。15才でした。

このパネル展は、29枚のパネルを通して、彼女の短い生涯を伝えるものです。2009年上智大学での開催以来、今回で114回目となります。

「じっさい自分でも不思議なのは、わたしがいまだ理想のすべてを捨て去っていないという事実です。…たとえいやなことばかりでも、人間の本性はやっぱり善なのだということを今でも信じています。」

(1944年7月15日)

この旅するYogiYogiでの開催は、次のみなさんへの“アンネのバトン”です！現代に生きる私たちに平和を考えるきっかけとなりますように。

主催：旅するYogiYogi

共催：ANNE FRANK Panel Exhibition Office

協力：駐日オランダ王国大使館

アンネについて

アンネ・フランクは、1929年6月12日、ドイツの裕福な家庭で生まれました。

ヒトラー率いるナチスがドイツの政権を握り、ユダヤ人狩りが始まる中、一家はオランダのアムステルダムへ移住します。

しかしドイツは移住先のオランダにも進駐。アンネの姉、マルギーにもナチスからの呼び出し状が届き、一家は密かに準備していた隠れ家へ移り住みます。



ユダヤ人が胸につけさせられた『ダビデの星』

アンネが日記帳をプレゼントされたのは、隠れ家生活が始まる直前の、13歳の誕生日でした。それから2年間、自分の内なる気持ちを日記に綴りました。

「私の望みは周りのみんなに役立ち、喜びを与えること。死んでからもなお生き続けること。いつの日かジャーナリストか作家になれるでしょうか。ぜひそうなりたい。なぜなら書くことによって新たにすべてを把握しなおすることができるからです。私の理念、私の理想、私の夢ことごとくを。」

(アンネの日記より)

●バザー de チャリーン

※会期中全日開催

- ・会場内にて、ミニバザーを開催しています。
- ・古絵本や木のおもちゃを集めて施設や病院に届けてます。